

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：並木第二保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：山本 茂善	定員（利用人数）： 102 名	
所在地： 〒236-0005 横浜市金沢区並木1-23-6		
TEL：045-771-0556	ホームページ： https://www.yamazen-fukushikai.or.jp/namiki2nd/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2018年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人山善福社会		
職員数	常勤職員：15 名	非常勤職員：17 名
専門職員	（専門職の名称）： 名	
	保育士：20 名	栄養士：1 名
	調理師：1 名	看護師：2 名
施設・設備 の概要	（居室数）	
	居室：保育室6室	設備：厨房1室
		設備：事務室1室
		設備：遊戯室1室
		設備：調乳室1室

③理念・基本方針

<理念>

「人の心と人の和」を大切に「大地に根差した生きる力を育む」保育を行います。

●子どもが豊かに伸びていく可能性を最大に発揮できる、現在（いま）をもっともよく生きる保育環境で、生涯にわたる生きる力の基盤を培います。

●子ども、保護者、職員、地域の人々がともに喜びともに育つパートナー関係を構築するとともに社会的責任、公共の利益を追求し、地域子育て支援の拠点的作用を果たします。

●子どもの最善の利益と福祉の増進を考慮し、子どもの主体性や人権を尊重するとともに豊かな人間関係を育つよう愛情と知識と技術をもって保育を行います。

<基本方針>

1. 子どもが安全で情緒の安定した生活ができ、自己を十分発揮できる環境を整え生活に必要な習慣、態度などを身につけ心身の健康の基礎を培います。

2. 子どもの主体的な活動や子ども相互の関りを大切にし、様々な体験を通して物事に対する興味や関心を育て自分で考え意欲的に行動し粘り強く関わる子どもを育成します。

3. 人との関わりの中で愛情や信頼感を育み、自分も人も大切に作る心を育て自立と協調の態度を養うとともに、道徳性や社会性の芽生えを培います。

4. 家庭と綿密に連携し子どもの状況や一人ひとりの発達過程を踏まえ育ちの上で望ま

しい経験を豊かにし養護及び教育を一体的に行います。

④施設・事業所の特徴的な取組

<並木第二保育園の特徴的な取り組み>

1. 職員研修の実施
2. 周辺保育園・幼稚園との交流
3. 周辺小学校との交流
4. 地域のコミュニティ施設との交流
5. 法人姉妹園との会議や意見交換

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年7月27日（契約日）～ 2021年2月12日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（ 年度）

⑥総評

【並木第二保育園の概要】

●並木第二保育園は、社会福祉法人山善福祉会（以下、法人という）の経営です。法人は大阪府茨木市を中心に茨木市に7施設、池田市に1施設、兵庫県芦屋市に2施設を運営しています。また、農園を保有し、季節ごとの野菜作りや収穫等の体験から食育に力を入れた保育園・認定こども園を展開しています。並木第二保育園は横浜市立認可保育園の民設民営化として平成30年に法人が運営主体となった保育園です。

●理念、基本方針を基に保育目標として、「生きる力を育む」ことに置き、①人間関係（ともだちっていいな）、②表現（自分でできたよ）、③環境（見つけてみよう、やってみよう）、④健康（げんきいっぱい）、⑤言葉（話してみたい、聞いてみたい）、⑥子育て支援（保護者とともに学び喜び合える関係を）を掲げ、保育を実践しています。この集大成が理念の「大地に根差した生きる力を育む」とする保育の達成につながっています。

◇特に評価の高い点

1. 【徹底した情報公開】

●法人をはじめ、並木第二保育園は、徹底した情報公開を行っています。ホームページの中で法人及び並木第二保育園のあらゆる情報が公開されており、苦情解決に関する開示についても、苦情対応の流れから苦情解決に至る記録まで公開し、透明性を確保しています。さらに、社会福祉法人であり事業報告・決算書類の公開は義務付けられていますが、平成28年度よりWAMNETの社会福祉法人の財務諸表等開示システムを活用し、積極的に決算状況を公開し、高度な情報開示が成されています。公的な媒体での一般公開は信頼性を高め、経営・運営の信頼につながっています。

2. 【情報の蓄積による裏付けのある保育運営】

●法人は、平成2年大阪府茨木市の山水学園の運営からスタートし、以降、保育園と認定こども園を11園運営しており、そのノウハウを多く蓄積しています。法人の理事長及び並木第二保育園の園長として、経営、人脈、制度等の知識・ノウハウを多く保有し、さらに、保育の実態、課題、職員の育成等、詳細を解析し、データベースにして保育に生かしています。「子どもを中心とした保育」のノウハウとして、各園の園長に公開し、「生きたデータ」として活用し、有機的な経営・運営を展開しています。

3. 【子どもの生活重視の保育】

●保育の具体的な内容の1つに、保育の中心に「頭と心と身体を三位一体とする教育・保育」を置いている点が挙げられます。教育については、知識を身に付ける教育ではなく、子どもが感動したり、実際に行動する、養護と教育を一体的に展開し、子どもの感性や創造性の無限な可能性を豊かな自然環境で引き出しています。保育理念の「人の心と人の和」に沿い、子どもの生活重視の保育を推進しています。保育士は、子どもの成長速度の個人差を理解し、日々の生活から子ども一人ひとりの発達段階を把握し、0歳から5歳までの連続性の中で見、0歳児から5歳児まで必ずそれぞれの担任を担い、子どもの成長の差の理解を深めています。子どもの生活の中で「頭と心と身体を三位一体」、「人の心と人の和」を実践し、子どもの感性や創造性の芽を育てています。

◇改善を求められる点

1. 【公立園から独自の保育園作り、利用者満足に向けて】

●現在の並木第二保育園の課題及び改善に向けて、公立園から法人の特徴をより生かした保育園の運営へ発展に向けて尽力しています。現在、法人ならではの運営、保育園の在り方は年月と共に浸透し、随所に工夫を加え、実現に向けています。しかし、民設民営化の移管の条件として、行事等については原則、公立保育園からの引き継ぎ内容に急激な変更は行わない等があり、現状、大きな改革はこれからであり、園舎の建て替えまたは改修についても構想中です。地域性を生かした豊かな自然と共に法人の特徴である保育園にファームの併設等、地域とのつながり、利用者満足における「子ども中心」、「子どもの満足」を前提に、「子ども中心とする中に保護者」としながらも保護者の意見、意向等の反映を含め、双方の改善、園の形態作りに期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：社会福祉法人山善福社会 並木第二保育園

<評価に取り組んだ感想>

第三者評価を受審することにより、日々の保育の振り返り、職員間での共通理解を再度行える良い機会になりました。

また、自分たちの働く施設がどのように評価されるのかは職員も興味があり、評価結果から自分自身の目標・課題を見直せることができたと思います。

<評価後取り組んだ事として>

職員会議や全職員への回覧などで情報を公開し、評価項目を①園長・主任②リーダー・担任③全職員と、自己評価実施時と同様に振り返りを行い、部門ごとの改善点・問題点を話し合い、保育の向上に努めました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり